

真狩村の影山農場におじゃましました！！

今回は、花ユリを栽培している真狩村花卉共選施設利用組合の影山組合長をご紹介します。

真狩村は、羊蹄山の南山麓に位置し、湧き水も流れる自然豊かな村で、じゃがいもやユリ根、大根、人参、花ユリなどが名産です。

【栽培のはじまり】

真狩村では、もともと花ユリの球根が栽培されていました。

時代が進むにつれて、オランダ産の安価な球根が輸入されるようになり、平成9年に当時の制度を活用して、花ユリ生産に切替えたのがはじまりです。

影山組合長は、組合設立の平成10年、球根の栽培もしていないところから、新たに花ユリ生産をスタートしました。

最初は、どの程度水をあげて良いのかも分からず、丈が伸びなかつたりと試行錯誤の繰返しでしたが、4～5年目くらいでユリというものが分かってきて、「良くなったね」と言われるようになり、平成17年から組合長を務めています。



影山組合長

【花ユリの栽培】

現在、育てている品種は、カサブランカ、シェーラ（シーラ）をはじめとした10品種で、約2haに作付けしています。

品種は、出荷時期をずらすことができ、球根が長持ちするものを選ぶようにしており、球根は、2～3年で新しいものに植替えているそうです。

新しい品種の栽培を始めた時は、出荷のタイミングを見極めるのが大変で、市場で花が咲いてしまうと、価値が下がってしまいます。

ルーティング（植付け後、速やかに成長させるため、冷蔵庫内で芽を伸ばすこと）をしてから植えたり、高畝にして水はけを良くするなど、今でも日々、工夫をしながら育てているとおっしゃっていました。



カサブランカ

【栽培の特色】

本州では、ビニールハウスで栽培されていますが、真狩村では、寒冷紗で栽培しています。

寒冷紗は、雨水も通すため水管理が大変ですが、茎が固く、昼夜の寒暖差により発色も良く、最後までつぼみが開くユリを育てることができます。



寒冷紗で育つユリ

【皆さんにメッセージ】

影山組合長から皆さんにメッセージを頂きました。

「真狩産のユリは、日持ちが良く、必ずつぼみが開きますので、是非、ご家庭でも楽しんでみて下さい！！」

私も影山組合長のカサブランカを飾らせて頂いたところ、見事に全てのつぼみが開き、真狩産花ユリの大ファンになりました。

真狩産の花ユリは、7月～9月にかけて全国に出荷され、道の駅真狩フラワーセンターでも購入することができますので、お楽しみ頂けると嬉しいです。

(平成24年9月取材 後志総合振興局農務課)